

令和3年度 第30回取手市長賞（美術分野）作品（受賞者）について

・日本画

作品名 そこにいる。
寸法 縦 227.3cm×横 181.8cm （150号）
材質 和紙 岩絵具 紙本彩色
作者 川口 富裕実（かわぐち ふゆみ）
福岡県 福岡市 出身 女性 26歳
（令和4年2月21日現在）
大学院美術研究科絵画科2年日本画専攻



作者コメント

動物園にいるオカピを見た時、最初どこにいるのか見つけられず、奥の方に隠れているのを見つけた。オカピは、見た目はシマウマのような、顔つきはキリンのような面白い生き物なのに、姿を見せたかと思えば隠れるように逃げていく。そんな繊細で臆病なオカピを色んな見せ方で描き出してみたいと考えた。

東京芸術大学推薦理由

川口さんの修了作品「そこにいる。」は動物と植物の構成がリズムカルに描かれており、限られた色彩の中で伸びやかに空間を表現しています。作者の絵画表現のバランス感覚の良さがうかがえる作品になっています。

・ 工芸（漆芸）

作品名 skin ship（スキン シップ）
寸法 高 30cm×幅 145cm×奥行 70cm
材質 漆 麻布 顔料 卵殻 貝 銀 木
作者 鈴木 阿弥（すずき あみ）
群馬県 高崎市 出身 女性 21 歳
（令和 4 年 2 月 21 日現在）
美術学部工芸科 4 年漆芸専攻



作者コメント

物理的な接触を伴わず、モノを通して相手と 1 番深いところで触れ合い寄り添うことのできる工芸の魅力に敬意を込めて制作しました。人間に 1 番近い皮膚を持ち、多くのイメージを持つ豚だからこそ、漆にも工芸にも馴染みのない方でもそういった何かを感じて頂けるのではないかと思います。

東京芸術大学推薦理由

自然豊かな場所で育った作者は、養豚場が近所にあり、豚は身近な動物であった。豚の持つ雰囲気や肌質は人間に近いものを感じモチーフにしたと言う。

人間を豚に例え、作者の観てきた花や草木の自然を蒔絵と卵殻、螺鈿で描いている。

作者が考える人間と自然の関係を表現した作品。表現力、技術力とも高く巧緻である。

自然豊かな取手市に相応しいと考え推薦する。